



緑の相談広場 ～緑と花の市民講座～ 「里山の草木」

令和6年7月20日

NPO法人角間里山みらい
専務理事 河崎 仁志

1. オウレン（黄連）

特徴：白い小さな花が咲き、日陰を好む多年草。高さ15cm～40cm。

日本海側を中心に自生するのは、キクバオウレン（菊葉黄連）が多い。

名称：根茎は太く、節状に珠が連なったような堅い部分があり、根の断面が黄色いことから「黄連」と名付けられた。

用途：根茎が漢方薬として利用される。抗菌、抗炎症、整腸など。

育て方：庭の樹の下の林床に使われる。土留めの役割にもなる。積雪の少ないところで栽培する時には寒風や凍結に注意が必要である。



2. イカリソウ（錨草）

特徴：特異な形の花。木陰に自生する。茎が数本束になって生える。15cm～25cm。多年草。

名称：花の形が船の「錨」に似ているためや薬草としての効能から「イカリ立つ」という言葉にかけた。

用途：薬草として葉茎を強精強壮として利用される。観賞用。

育て方：明るい日陰。株分けで増やすか種を採取。腐葉土の多い水持ちがよい土。



3. クロモジ（黒文字）

特徴：枝葉を折ると柑橘系に似た香りがする。

名称：緑色の小枝に煤で汚れたような黒い文様があり、これを見立てて黒文字とした説がある。

用途：爪楊枝、お茶、精油、庭木、垣根、根皮は生薬で脚気や鎮咳（ちんがい）、クロモジ材は材質が軽く強靱なため、洋傘のカマの柄、輪かんじきに使われている。
ガイド。

育て方：腐葉土があるやや湿った土地を好む。



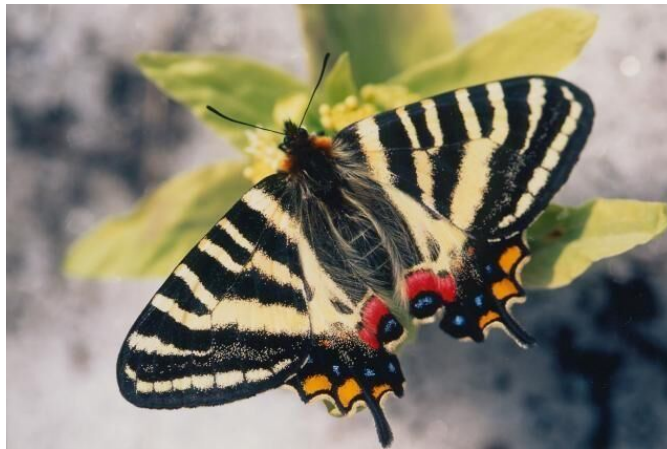
4.カンアオイ (寒 葵)

特徴：秋から冬に開花。ハート形の大きな葉を地に伏せて、その根元に先端が3つにさけた小さく堅い筒状の花を咲かせます。

名称：徳川家の家紋のモチーフとなっていることで有名な葵（フタバアオイ）に近縁で、冬でも葉が残る常緑性であることにちなみます。

用途：鑑賞用。ギフチョウは、カンアオイの葉の裏に真珠のような卵を産みつけ、孵化した幼虫は、葉を食べます。カンアオイの林床は、ギフチョウの個体群を保全するために不可欠である。

育て方：庭植えの場合は少し明るい日陰の樹木の下がよい。用土は水持ちを重視します。株分けで増やせる。



5. ショウジョウバカ (猩猩袴)

特徴：葉は根本から多数出てロゼット状に平らに広がる。山地の湿った谷あいには育つ多年草。開花は、春先。

名称：古代中国のオラウータンの神格化した幼獣。赤い花を赤い顔に葉っぱが袴のようだから名付けられたとされる。

用途：

育て方：庭植えの場合には、明るい日陰の場所。日焼けに注意。

葉ざし：株の葉の先端からは、新芽が出てきます。葉の先端に薄く水ゴケなどをかぶせてピンで押さえておきます。

タネまき：5月に実ったタネをとりまきにします。タネは寿命が短く、保存できないので、タネをとったら直ちにまいてください。

